家族に愛されて 地域に愛されて

動物愛護祭りでは毎年15歳になった長老犬を表彰しています。

昨年表彰された「のび太」くん（オス）の飼い主である堂下さんご夫妻にお話を伺いました。

名付け親は夫の六男さん。

きっかけは「新築祝い」

のび太くんとの出会いは16年前。堂下さんが現在の家を建てたとき、大津町に住んでいる友人が「新築祝い」と言って連れてきたのが、生後1週間ののび太くんでした。番犬にと勧められて、のび太くんとの生活が始まりました。

「のんびり育てたい」という思いで名付けたそうです。最初は反対した妻の美津子さん。しかし、その名前は周りの人にも親しまれ、少しずつ慣れたそうです。

母犬を求めて夜泣きするのび太くんに、堂下さんは人間の赤ちゃんと同じようにミルクを与え、世話をしたそうです。

これからも一緒に

今では子どもたちも家を出て、夫婦二人となりましたが、やはりのび太くんの存在は大きいようです。今年3月に退職した六男さんの生活は、のび太くん中心となりました。朝起きると一番にえさをやり、夕方の散歩は欠かしたことがありません。「のび太くんが居なかったら、夫婦の会話は無いかも」と美津子さんは笑います。

のび太くんのために庭は舗装せず、自由に動けるよう首ひもを長くするなど、人間で言えば80歳くらいになるのび太くんに対するご夫妻の気遣いが伝わってきます。

「ともに白髪の生えるまで」という言葉は、夫婦だけでなく愛犬にも言える。

二人と一匹の仲睦まじい姿は、そんなことを感じさせてくれました。

TOPICS

「のび太のおばちゃん！」

のび太くんの周りには温かい人々の輪が取り巻いています。忙しいご夫妻に代わって近所のおじいちゃんが食べ物をくれたり、狂犬病予防接種に連れていってくれたりすることもあったとか。

人気者ののび太くんのおかげで、美津子さんは地域の子どもたちから「のび太のおばちゃん」と親しまれています。子どもたちに慕われることで、そのお父さん・お母さんたちとも親しくなれるそうです。

現代は地域のつながりが希薄だと言われていますが、一匹の犬によって交流が生まれる例がここにあります。

「地域にも愛される犬」は、「地域にも幸せをもたらす犬」なのです。

動物を助けたくて 獣医師を目指す

昭和49年に獣医師免許をとってから、もう35年になります。

高校生のころ、家で豚を飼っていましたが、病気になると獣医師の先生は、たとえ夜中でもかけつけてくれていたんです。それで、自分も動物を助ける人間になりたいと思い、獣医師になろうと決めました。

停電が教えてくれたこと

私は小動物を専門に診ていますが、「小さな命を大切に」という気持ちでやっています。また、「五感」を常に研ぎ澄ますよう気をつけています。実は昔、病院が停電したことがあったんです。それまでは検査データに頼っていたんですが、機械が動かないので、動物たちの症状が分からなくなったんです。「自分は今まで何をやっていたんだ。これではだめだ」と思いましたね。それからは感じる力を養い、動物の目を見たり体を触ったりしながらどんな状態か分かるように努力しています。

ベストパートナーでいるために

飼い主のマナーは昔より悪くなりましたね。特に若い人など、動物を制御できない飼い主が多くなりました。

家の中で犬がトップになっている家庭がいくつもありますが、そうやって甘やかしてばかりいると、犬は噛み付いたり吠えたりするようになります。そうなると手に負えなくなり、虐待や飼育放棄する飼い主が出てきます。人間の勝手でしつけられなかった犬が、吠えたり噛み付いたりするから手に負えない、怖いという理由で捨てられてしまうのです。

まずは動物の飼い方を知ってください。毎年開催している動物愛護祭りでも、しつけや飼い方教室を開いています。始まった当時から関わっていますが、熊本県内でも一番長く続いているイベントなんです。そのような場所で情報を集めるなど、正しい飼い方やしつけ方を知ることが大切です。かかりつけの獣医師がいることも大切ですね。

そして死ぬまで責任を持って大事に育ててほしいと思います。

また、飼っている犬が何を考えているかを「感じる」ことです。動物を飼うことに限らず、「感じる」人が多い世の中になってほしいですね。感じることができれば、子どもたちも素直に育っていきます。「五感」は生きるすべでもありますから、常に感じる努力をして、動物にもやさしくしてあげてくださいね。

みやがわ動物病院院長
熊本県獣医師会菊池支部副支部長、ＮＰＯ法人菊池るねさんす理事長
宮川健一郎さん

感じなければ 何も生まれない

長年、動物を見続けたその目は、今の社会に何を見るのか。

「みやがわ動物病院」の院長である、宮川先生にお話を伺いました。

取材を終えて

犬やその他の動物は、その限られた一生のなかで温もりを探し、愛を求めます。それは、私たち人間も変わることはありません。大好きな人やモノに愛を注ぐことの素晴らしさは、言葉で表すことは難しいけど、そのことは、みんな知っていることです。

動物と人間は、言葉を交わすことはできませんが、心を通わせることはできます。「仕草を見て、思いを感じ取る」「自分の思いを犬に伝える」・・・飼い主であれば、努力したことがあるはずです。

言葉にできない思いを伝え、思いやる。これが「愛するコト」だと思います。

宮川先生は、気づく気持ち、感じる努力をやめた人が多くなっていると警告しています。「思いやる」気持ちがあれば、犬や猫にも、そして人間にも「やさしくするコト」ができるでしょう。

そして、動物の飼い主であるあなたは、何ができるのでしょうか。それは一つしかありません。その動物を愛し続けること。言葉を使えない動物たちが、あなたに何を伝えようとしているのかを、あなたの「愛」で聞いてあげてください。

特集
愛するコト
やさしくするコト

おわり

第23回動物愛護祭り

動物愛護祭りは、動物の愛護と適正な飼養についての関心と理解を深めるためにさまざまなイベントを行っています。家族の皆さんで参加をお待ちしています。

とき　9月20日（日）
午前10時～午後3時
ところ　熊本県農業公園「カントリーパーク」
のびのび広場
内容　動物慰霊祭、盲導犬の理解・啓発、長老犬表彰、動物ものまねコンテストなど
問い合わせ先
菊池保健所　☎（25）4135